山口 敏子 議員 清流クラブ

本市の児童虐待防止対策としてどのような取り組みをしているか

問

報道で幼い子どもが虐待により犠牲になる、大変悲しい報道がされている。

子どもは、100人いれば100通りの育ち方をする、育児書どおりにはいかない。

親は、自分の子が他の子と少しでも異なると、焦り、悩み、不安が膨らんで、虐待はどの家庭でも起こり得ることとなってきた。

幼い子どもにとって一番身近にいる、絶対安心の対象である親からの虐待が8割以上という数字が上がっており、このような親の子育てに対する不安、孤立化を防がなくてはならない。

(1) 本市では、シルバー人材センターが仲立ちとなったファミリーサポートセンターがある。

現在の①協力会員、②利用会員、③登録者数、④利用件数はどれくらいか。

(2) 育児疲れに対する心の支えとなるような精神的な相談窓口はあるのか。

(3) 乳児健診未受診者数はどのくらいか。

また、その後の対応は。

(4) 近隣市町村の中には、虐待防止ネットワーク協議会があり、身近に気になること、気になる人がいれば空振りでもいいから連絡をしてもらうような取り組みがされている。

本市でもこのような協議会はあるのか。

(5) オレンジリボン運動は、子どもの虐待をなくすことを呼びかける市民運動である。

毎年11月に「子どもの笑顔を大切に」と掲げて、全国で児童虐待防止推進月間が行われている。本市で毎年10月に開催される健康フェスタにおいて虐待防止の意識の啓発を進めるためにも、このオレンジリボン運動を取り入れてはどうか。

協議会を設置し、関係機関と連携しながら対応をしている

答 児童課長

(1) 26年3月現在、①55名、②266名、①・②両方会員13名、③334名、④25年度は1千5件。

答 民生部長

(2) 子育て支援センターを3箇所設置しており、生活習慣に関するものや、身体・言葉の発達に関する相談を受け付けている。

24年度からは臨床心理士による巡回個別相談も実施し、専門的な立場から助言も行っている。

さらに、子育て支援センターでは、子ども同士、また親同士の仲間づくり、情報交換の場としての事業も実施している。

(3) 25年度の4カ月児健康診査未受診者は4名、1歳6カ月児健康診査未受診者は1名、3歳児健康診査未受診者は10名。

未受診者に対して電話連絡を行うか、場合によっては自宅を訪問するなどして、全ての乳幼児の安否確認は完了している。

26年度も全ての乳幼児の安否確認は完了している。

(4) 要保護児童対策地域協議会を設置している。

この協議会は、虐待を受けている子どもの早期発見や適切な保護を図るため、児童福祉法の規定により設置されたものである。

(5) 健康フェスタの会場でオレンジリボン運動の啓発ができるよう準備を進めていきたい。

通学路・生活道路に新型ガードレールを

問

2月に国土技術政策総合研究所で公開された新しいガードレールは、従来品よりも設置が容易で、薄型で、時速40キロで総重量8トンのトラックが左側面から突っ込んでも、支柱も折れず、歩行者の安全が守られることが確認されたようである。

この新しいガードレールを設置する予定はあるか。

有効性が確認され、使用可能となったら設置を検討したい

答 開発部長

歩行者の交通安全対策として、歩道と車道を分離するための防護柵の設置が有効と考えている。

現在も国道技術政策総合研究所で衝突実験が続けられており、歩行者の交通安全対策としての有効性が確認され、国土交通省令の改正後、使用できることが確認できたら、設置に向けて検討していきたい。